

「WHO 統合国際診断面接第5版(CIDI 5.0)日本語版の信頼性・妥当性の検証における
患者群調査の研究 (5)」

分担研究者 木村 充（独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 診療部長）

研究要旨

CIDI（統合国際診断面接）はWHOによって開発された精神疾患の包括的な診断を行う構造化面接である。精神疾患の国際疾病分類がICD-10からICD-11に変更されたことに伴い、CIDIは第5版(CIDI 5.0)に改訂された。我が国で疫学研究を行うにあたって、日本語版のCIDI-5を開発することは、海外との比較や国際共同研究を行う上で重要であると考えられる。この研究班では、CIDI-5の日本語版を作成しその妥当性、信頼性を確保することを目標としている。本分担研究では、アルコール依存症の患者群に日本語版CIDI-5を適用したフィールドテストを行うことにより、その妥当性を検証することを目的としている。今年度は、研究の進め方について他機関と協議し、実際の患者への調査を行うための準備を行った。

A.

研究目的

CIDI（WHO 統合国際診断面接）はWHOによって開発された精神疾患の包括的な診断を行う構造化面接である。精神疾患の国際疾病分類がICD-10からICD-11に変更されたことに伴い、CIDIは第5版(CIDI 5.0)に改訂された。我が国で疫学研究を行うにあたって、日本語版のCIDI-5を開発することは、海外との比較や国際共同研究を行う上で重要であると考えられる。この研究班では、CIDI-5の日本語版を作成しその妥当性、信頼性を確保することを目標としている。本分担研究では、アルコール依存症の患者群に日本語版CIDI-5を適用したフィールドテストを行うことにより、その妥当性を検証することを目的としている。

B. 研究方法

西らによって翻訳されたCIDI-5日本語版を用いて、アルコール使用障害（依存症）の患者に対して構造化面接を行い、その妥当性を検討する。対象は、久里浜医療センターにアルコール使用障害のため入院した患者20名とする。各被験者に対して、CIDI 5.0および精神科医あるいは臨床心理士によるDSMチェックリストを用いた面接を実施し、CIDI 5.0による診断の精度を確認する。一部の対象者にCIDI 5.0を2週間から1ヶ月後に再試行し、評価者間信頼性を評価する。

C.

研究結果

今年度は、研究の進め方について他機関と協議し、実際の患者への調査を行うための準備を行った。久里浜医療センター倫理審査委員会に倫理審査の申請を行った。次回開催される倫理審査委員会にて審査が行われる予定である。また、面接結果はWebシステムを通じて行われることになっているため、機器の準備等の環境整備を行った。

D. 考察

まだ研究初年度で全体の計画が始まったばかりであり、今年度は実際の面接を行うための環境整備を行った。次年度より、面接者のトレーニング研修を行い、実際の被験者に対する面接を行う予定である。

E. 結論

CIDI-5の開発は、今後の疫学研究等の基盤として重要なものであり、患者に対するテストを行うことでその妥当性を検討することは必須であると考えられる。今年度は実際の面接を行う準備を行うことができた。次年度より面接を進めていくことが可能であると考えられる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2 実用新案登録

なし

3. その他